



## 春日クリニック 25周年企画 リレーエッセイ② 院長 清田 真由美



短くもあり長くもある25年でした。家庭的には長女が小学校入学という大きな節目の年の開業は、母親としていろいろ葛藤もありました。

自分ではあまり記憶にありませんが、“一生一度きりだから頑張らなきゃ”というのが高校時代の私の口癖だったそうです。それを地でいったような思い切ったスタートでしたが、思い返してみると全面的に支えてくれた家族、思いを理解して応援してくれたスタッフのおかげだとしみじみ思います。本当にありがとうございました。この機会にこれまでの25年間を振り返ってみました。

### 創業期（平成4年～平成8年）

国鉄が民営化され、春日は多くの人が出出して、まさに人口大減少地区でした。開業にあたって多くの人からやめた方がいいとアドバイスを受けました。しかし、自分たちのやりたい医療をやるだけと、地道になくてはならないクリニック作りに邁進しました。理事長と二人、フットワークよく、とにかくよく動いた時期でした。



### 第1次成長期（平成9年～平成13年）

私たちの思いが少しずつ浸透し地域の方々の支持を得て、順調に患者さんも増えました。手狭なクリニックの機能を補完する意味で、さまざまな付加価値をつける必要がありました。訪問看護ステーションの開設やおりひめの会を立ち上げた頃です。

### 忍耐期（平成14年～平成20年）

駅周辺開発、区画整理事業の影響でクリニック周辺の環境が激変しました。診療圏の人口流出、交通アクセスの悪化等で、普通なら存続の危機さえありました。更年期や介護を含めた一貫した外来での取り組みにより、わずかながらも患者さんが増加する状態を維持することができました。この時のさまざまな取り組みこそ、現在のクリニック発展の礎となりました。



### 第2次成長期（平成21年～）

新しいクリニックへの移転と新幹線開業、駅周辺開発の進行により、順調に患者も増え、法人全体の多様な機能整備も相まって、お陰様で右肩上がりの成長が続いています。

いずれにしても長年築き上げてきた皆さんとの信頼関係の中で、人生の最期まで関わられることは、医師として最高の荣誉です。地域のかかりつけとして、この後25年も“ずっと看続ける医療”の完成を目指して頑張っていきたいと思えます。

どうぞよろしくお願ひいたします。

⇒ 次回のリレーエッセイ 浦上誠 管理部長



25周年に寄せて、はるかぜネットワーク読者の皆さまからも「春日クリニックの思い出」についてエッセイを募集します。400～500字程度、できれば何か思い出の写真を添えてスタッフまでお渡しください。寄稿してくださった方には「ものすご〜い」豪華粗品が？たくさんのご応募お待ちしております。